

(別紙様式第4号)



「平成28年度岐阜県商工労働部試験研究機関評価員会議」

評価報告書にかかる中間点検結果書

平成30年9月

岐阜県セラミックス研究所
岐阜県商工労働部産業技術課

1 評価員会議実施概要

(1) 評価日

平成28年10月27日(木)

(2-1) 評価員名簿

大矢 豊	国立大学法人岐阜大学工学部化学・生命工学科教授
杉山 豊彦	国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センター 無機機能材料研究部門粒子機能化技術グループ上級主任研究員
河口 一	山喜製陶株式会社 代表取締役社長
水野 清司	株式会社カクジン 代表取締役社長
隅谷 建壬	株式会社隅谷 代表取締役社長

(順不同、敬称略)

(3) 評価対象年度

平成25年度から平成27年度

2 評価員からの意見・提言を受けて講じた試験研究機関等の改善策並びに改善策の進捗状況等

(1) 研究課題の設定

意見・提言	研究員の自由な発想に基づく研究について、具体的な内容が分かると良い。	改善策の進捗状況	平成29年度以降の研究報告や研究成果発表の中で各研究の位置づけを明確に発信することで、オリジナリティの明確化に努めています。
改善策	研究員の自由な発想に基づく研究については当研究所の研究報告等で、そのオリジナリティをより明確に発信し、内容の明確化を図っていきます。		
意見・提言	地元業界団体などとの交流・接触、情報収集を頻繁に実施しており、それに基づく課題設定は適切と思われる。更に一歩踏み込んで市場調査などの他の手段を含めた課題の発掘や技術の展開の戦略があると良い。	改善策の進捗状況	平成29年度以降の課題設定に係る業種別懇談会において、陶磁器卸商業組合の各理事長との意見交換を実施するとともに、企業ニーズ調査においても、陶磁器関係の商社への訪問を積極的に実施し、課題設定における参考情報としています。
改善策	消費者と接触の多い陶磁器関係の商社へのヒヤリングを強化していくことで、これまで以上に市場動向を反映した研究課題設定に努めていきます。		

(2) 研究体制

意見・提言	各市に研究所があり、セラ研を含めて4ヶ所になるが、2つに合併して、業界のニーズにスピード感を持って対応するなど、利用回数が増えるように努力することが必要。	改善策の進捗状況	各市の研究所と当所から構成される東濃四試験研究機関協議会において、依頼試験での技術課題に関する担当者レベルの勉強会を開催し、どの研究所でも同レベルの試験が提供できるように努めるとともに、各市の研究所と当所が所有する試験設備と試験内容を紹介する「利用の手引き」を作成し、配布するとともに、HPに掲載し、利用者の利便性向上を図っています。	
改善策	地域の業界ニーズを考慮した上で、技術支援強化の方向性について関係する自治体と検討していきます。		改善策の進捗状況	外部資金を活用した産学官共同研究に積極的に応募し、採択されています。関しては、候補課題を発掘し、チャンスを逃さないよう努めています。 平成28年度実績： <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的基盤技術高度化支援事業（経済産業省） ・高精細多積層転写技術を用いた透かし情報タグによる製品のブランド化 ・研究成果最適展開支援プログラム A-STEP (国立研究開発法人科学技術振興機構) ・無焼成セラミックスプロセスの解析とそれに基づく革新的材料の創生 平成30年度実績： <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的イノベーション創造プログラム（内閣府） ・ナノ物質の集積複合化技術の確立と戦略的産業利用 ・一般財団法人越山科学技術振興財団研究助成金 (一財)越山科学技術振興財団 ・電子機器用セラミックスの加工技術の開発
意見・提言	各大学との共同研究を産・官・学補助金などを活用しながら、積極的に新分野進出を支援することが必要。	改善策		外部資金を活用した産学官共同研究に関しては、平素より候補課題を発掘し、チャンスを逃がさないように努めています。
改善策	外部資金を活用した産学官共同研究に関しては、平素より候補課題を発掘し、チャンスを逃がさないように努めています。			

(3) 成果の発信と実用化促進

意見・提言	<p>少なくとも年に1報くらいは学術論文を公表してほしい。</p> <p>論文発表は無理に実施する必要はないが、研究をしていれば幾つかの論文発表は自然に発生するようになる。</p>	改善策の進捗状況	<p>積極的な論文の投稿を推奨し、平成29年度は2報の論文が掲載されました。本年度分については、現時点で、1報の論文が採択されています。今後とも継続して論文投稿に取り組んでいきます。</p>
改善策	<p>最近の実用的な研究課題が多いため、学術論文としてまとめづらい面があります。しかし、より深く分析・考察することにより、学術論文として成立するため、年に1報を目指して努力していきます。</p>		

(4) 技術支援

意見・提言	<p>試験設備と試験項目が分かるといいと思う。</p>	改善策の進捗状況	<p>平成28年度、平成29年度に東濃四試験研究機関の所有する試験設備と試験内容が分かる利用の手引きを作成し、業界の各組合を通じて企業に配布しました。更にHPにも掲載し、業界への周知に努めています。</p>
改善策	<p>当研究所のホームページでは、依頼試験と開放機器の利用に関する情報を公開しています。なお、現在、東濃四試験研究機関が所有する機器を紹介するパンフレットの作成を計画しており、今後とも、更なる情報提供に努めています。</p>		
意見・提言	<p>研究員が自発的に地元企業を回ってみると、技術相談等、多くの問題を抱えていることが見えてくる。問題を絞り込み、解決策を見つけて地元企業にセラミックス研究所の存在の必要性を感じてもらうことが急務である。</p>	改善策の進捗状況	<p>企業訪問時に、企業の状況のヒヤリングだけでなく、当研究所の研究成果や技術シーズについて紹介し、研究成果の技術移転とより深い意見交換に努めています。</p>

改善策	<p>今後は、企業訪問をこれまで以上に積極的に実施し、より多くの課題収集に努めます。また、企業訪問時に当研究所の研究成果や技術シーズを紹介し、より一層の成果普及に努めます。これにより、地元企業の当研究所への理解をより一層深めていきます。</p>		
-----	--	--	--

(5) 人材の育成・確保

意見・提言	<p>職員の研修はセラミックス分野だけでなく、様々な分野に対して実施してはどうか。</p>	改善策の進捗状況	<p>研究開発人材育成事業等の活用実績 平成29年度実績： 7件（ソフトウェア関連：3件、分析技術関連：4件） 平成30年度実績： 5件（ソフトウェア関連：1件、分析技術関連：4件） 今後も可能な限り、様々な分野の研修や研修会に参加し、人材の育成を図っていきます。</p>
改善策	<p>研究開発人材育成事業等を活用し、職員をソフトウェア開発に関する研修に派遣したり、分析技術に関する研究会に研究員を参加させたりしています。今後ともセラミックス分野以外の研修、講演会、研究会への参加を促進していきます。</p>		